令和５年度

「健都快復・実感予算」

総 額　348 億 2,330 万円

第２次総合計画後期基本計画の２年目となる令和５年度は、長引くコロナ禍や緊迫の国際情勢に直面する中、行政経営の重点方針において「快復の年」と位置付け、後期基本計画の４つの重点プロジェクトを積極果敢に展開するとともに、コロナ禍で傷みを生じた社会活動や地域コミュニティを「快復」させる施策・事業への重点配分を行い、持続可能な行財政運営を目指した予算編成を行いました。

主な事業として、（仮称）健康都市大学の創設、滋賀医科大学とのスポーツ・運動器科学共同研究講座の設置、県下初となる帯状疱疹ワクチン接種に対する助成、アプリｄｅウェルネス推進事業の実施など健康都市政策の推進を図るとともに、産業・雇用を創出するため、産業振興奨励事業の増額などを行いました。

３年にわたったコロナ禍を克服し、地域社会を「快復」させるとともに、より健やかで活力ある持続可能な「緑の健都　かめやま」の実現へ向け、一層しなやかな挑戦を進めます。

一般会計

213 億 9,000 万円
（前年度比 3.1％減）

福祉や防災、道路、教育など、市の基本的な仕事に関する収入と支出を経理する会計です。

特別会計

59 億 2,030 万円
（前年度比 5.7％増）

特定の目的のための会計で、特定の収入があり、一般会計と区別して収入・支出を経理する会計です。

国民健康保険事業	47 億 8,610 万円（前年度比　5.9％増）
後期高齢者医療事業	11 億 3,420 万円（前年度比　4.9％増）

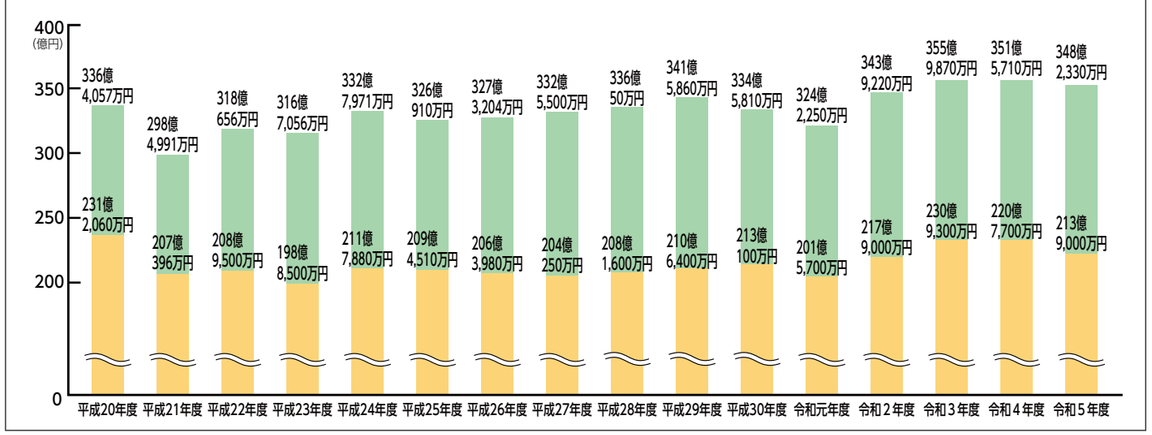
企業会計

75 億 1,300 万円
（前年度比 0.5％増）

民間企業と同じように事業収入によって運営する会計です。

水道事業	18 億 3,090 万円（前年度比　2.0％増）
工業用水道事業	8,660 万円（前年度比34.1％減）
下水道事業	34 億　90 万円（前年度比　1.2％減）
病院事業	21 億 9,460 万円（前年度比　4.1％増）

全体の予算額と一般会計予算額の推移



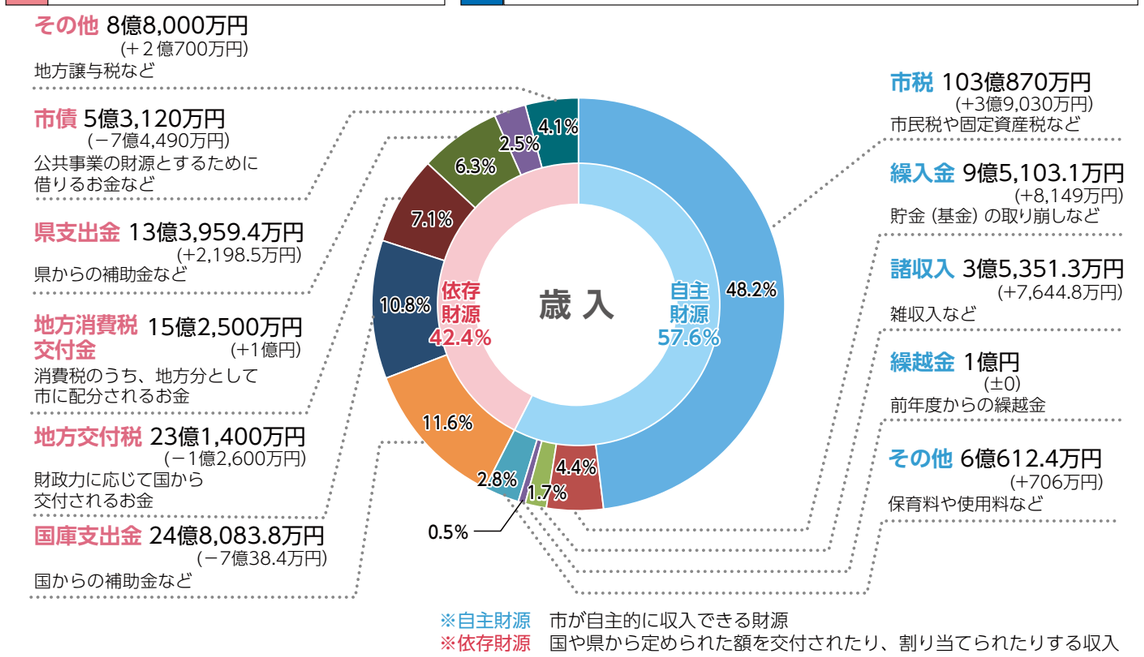
一般会計のポイント

歳入（前年度比）

▷個人市民税や法人市民税などの増収により、市税収入が前年度比３億 9,030 万円 (3.9％) の増加
▷亀山駅周辺整備事業、図書館整備事業の完了などにより、市債は 58.4％減の５億 3,120 万円に
▷財政調整基金から、前年度比 6,000 万円減の７億 3,000 万円を繰入

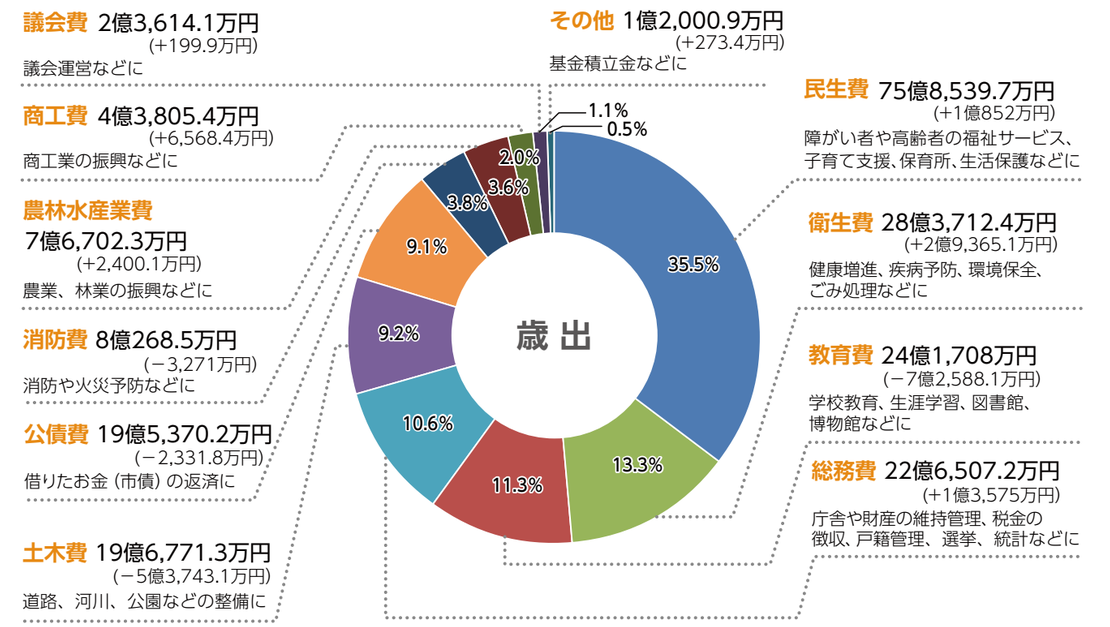
歳出（前年度比）

▷昨今の国際情勢などの影響によるエネルギー価格の高騰に伴い、各公共施設の光熱水費等が約１億 3,200 万円の増加、総合環境センターの溶融炉で使用するコークスの購入費などの施設管理費が約１億 6,200 万円の増加
▷民生費は、障がい者（児）自立支援事業や後期高齢者医療事業繰出金などにより、過去最高額の約 75 億 9,000 万円
▷土木費は、亀山駅周辺整備事業の完了などにより 21.5％の減額、教育費は、図書館整備事業の完了などにより 23.1％の減額



※自主財源　市が自主的に収入できる財源
※依存財源　国や県から定められた額を交付されたり、割り当てられたりする収入

一般会計　213 億 9,000 万円



※（　）内は前年度比。計数ごとに四捨五入しているため、合計が一致しないことがあります。